

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

| | | |
|--------|--------|-------------|
| A時点: - | B時点: - | C時点: 22. 7月 |
| | | |

局名 子ども家庭局

| | | |
|------|--------|------------------------------|
| 基本計画 | 柱 | きずなを結ぶ |
| | 大項目 | すべての市民が人権を尊重され自分らしく暮らせるまちづくり |
| | 取組みの方針 | 男女共同参画社会の形成 |

| | | |
|--------------|------------|----------|
| 担当局 / 総務担当課名 | 子ども家庭局 | 子ども家庭政策課 |
| 連絡先 | 582 - 2550 | |

21年度計画

-3-(2)-

施 策 名 性別による人権侵害行為の根絶

| | | |
|-------|---------------------|--|
| 施策の概要 | 何(誰)をどのような状態にしたいのか。 | 男女がともに個人として尊重される社会の実現のため、男女の性別に起因する暴力等、人権を踏みにじる行為を根絶します。 |
| | その結果、実現を目指す取組みの方針名 | 男女共同参画社会の形成 |

| 施策の成果 | 成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方) | | 現状値 | | 計画 | 平成21年度 | 目標値 | |
|---|--|--------|-----|----|--------|----------|-----------------------|--------|
| | 年度 | 平成17年度 | 年度 | 実績 | | 年度 | 年度 | 平成25年度 |
| 夫婦間における「平手で打つ」「殴るふりをしておどす」について暴力と認識する人の割合 | 現状値 | 67.1% | 実績 | - | 目標値 | 100% | 100% | |
| | 達成度 | 50.4% | 達成度 | % | | | | |
| | 年度 | | 計画 | | 年度 | | | |
| | 現状値 | | 実績 | | 目標値 | | | |
| | 達成度 | | 達成度 | % | | | | |
| | 年度 | | 計画 | | 年度 | | | |
| 配偶者等からの暴力を根絶するためには、暴力に関する正しい認識の周知・啓発が不可欠です。 | 現状値 | | 実績 | | 目標値 | | | |
| | 達成度 | | 達成度 | % | | | | |
| | 年度 | | 計画 | | 年度 | | | |
| | 現状値 | | 実績 | | 目標値 | | | |
| | 達成度 | | 達成度 | % | | | | |
| | 年度 | | 計画 | | 年度 | | | |
| コスト | A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額] | | | | 事業費 | 7,177 千円 | 構成事業にかかった人件費の目安(21年度) | |
| | | | | | うち一般財源 | 7,177 千円 | 3,300 千円 | |

局施策に対する担当局の評価

| 局施策の評価 | 21年度評価 | 主な分析理由 |
|---|---|--|
| 成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。 今後の局施策の方向性 | B | 関係機関との連携を図り、継続的に広報・啓発を行うなどして、目標の達成に向けて着実に取り組んでおり、概ね良い状況にあると考えます。 |
| | 関係機関との連携をさらに強化し、目標の達成に向けて、今後も継続的に広報・啓発を中心に取り組みを進めていきます。 | |

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価
 下記のとおり

提示されている指標の中には調査等が必要なものもありますが、施策評価を行う上で重要なものと考えられることから、今後とも調査方法や時期などを検討していくことが望まれます。
 現在の指標に加え、施策全体の分析を行う必要があるのではないかと考えます。

事業評価票

| | | |
|------------|----|----|
| 平成21年度実施事業 | 新規 | 継続 |
| | | |

| | | |
|--------|--------|-------------|
| A時点: - | B時点: - | C時点: 22. 7月 |
| | | |

| | | |
|-------|----------|-----------|
| 担当局/課 | 子ども家庭局 | 男女共同参画推進部 |
| 連絡先 | 582-2405 | |

| | | |
|------|-------|------------------------------|
| 基本計画 | 柱 | きずなを結ぶ |
| | 大項目 | すべての市民が人権を尊重され自分らしく暮らせるまちづくり |
| | 取組の方針 | 男女共同参画社会の形成 |
| | 主要施策 | 性別による人権侵害行為の根絶 |

| | |
|------|---------------------|
| 関連計画 | 北九州市男女共同参画基本計画(第2次) |
| 事業期間 | H16~ |
| 経費区分 | 裁量の経費 |

-3-(2)-

| | |
|-----|---------------|
| 事業名 | 配偶者等からの暴力対策事業 |
|-----|---------------|

| | | | | | |
|-------|-------------------|---|----------------|----|---|
| 事業の概要 | 何(誰)をどのようになりたいのか。 | 男女がともに個人として尊重され、女性に対する暴力等、人権侵害行為のない社会を実現するため、配偶者や恋人等、親しい関係にある人からの暴力について正しく認識し、それぞれの人権を尊重する意識を醸成します。 | | | |
| | その結果、実現を目指す施策名と成果 | 施策名 | 性別による人権侵害行為の根絶 | 成果 | 夫婦間における「平手で打つ」「殴るふりをしておどす」について暴力と認識する人の割合 |

| 目的実現の為に実施する内容 | 実施工程 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 計画変更理由 | | |
|---------------|-------|---|---|---|---|---|----------|---|---|
| | | 当初計画 | リーフレット等の作成・配布 ・出前講演開催 ・関係機関との連携・協力 ・DV相談 | リーフレット等の作成・配布 ・出前講演開催 ・関係機関との連携・協力 ・DV相談 | リーフレット等の作成・配布 ・出前講演開催 ・関係機関との連携・協力 ・DV相談 | リーフレット等の作成・配布 ・出前講演開催 ・関係機関との連携・協力 ・DV相談 | | リーフレット等の作成・配布 ・出前講演開催 ・関係機関との連携・協力 ・DV相談 | リーフレット等の作成・配布 ・出前講演開催 ・関係機関との連携・協力 ・DV相談 |
| 【手段】 | 実施状況 | 成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方） | | | | | 平成21年度 | 目標 | |
| | | 夫婦間における「平手で打つ」「殴るふりをしておどす」について暴力と認識する人の割合 | | | | 計画 | - | 年度 | 平成25年度 |
| | | 配偶者等からの暴力を根絶するためには、暴力に関する正しい認識の周知・啓発が不可欠であると考えます。 | | | | 実績 | - | 内容 | 100% 100% |
| | | | | | | 達成度 | - | 年度 | |
| | | | | | | 計画 | | 内容 | |
| コスト | 単年度計画 | A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額] | | | | 事業費 | 7,177 千円 | 事業にかかった 人件費の目安(21年度) 3,300 千円 | |
| | | | | | | うち一般財源 | 7,177 千円 | | |

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

| | | |
|------|-------------------------------------|--|
| 実施結果 | 21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 | 相談窓口紹介カード等を作成して公共施設や医師会等に配布したり、NPO等と連携して高校・大学等にて出前講演を開催するなど、啓発事業を実施しました。また、DV相談業務により被害者支援を行うとともに、デートDVニーズ調査を実施するなど概ね計画どおり進捗しました。 |
|------|-------------------------------------|--|

【事業の再検証】

| | | | | |
|--------|---|---|---|---|
| 評価 | 有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。 | 4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い | 4 | 男女の人権の尊重と女性に対する暴力の根絶のためには、啓発等による正しい理解の促進が有効な手段であると考えます。 |
| | 経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。 | | 3 | NPO等と連携を図って出前講演を実施するなど、経済性・効率性は高いと考えます。 |
| | 適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。 | | 4 | 児童虐待とともに現代社会のかかえる喫緊の課題であり、特に若年層への広報・啓発は適時性が高いと考えます。 |
| | 市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。 | | 4 | 本施策は社会全体の問題であり、今後も市を中心として国やNPO等関係機関との連携を図りながら、取り組む必要があると考えます。 |
| 今後の方向性 | 評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 | ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了 | ウ | 関係機関との連携をさらに強化し、目標の達成に向けて、今後も継続的に広報・啓発を中心に取り組みを進めていきます。 |